

昭和58年度（問 題）

1. 次の(1)~(8)までについて、それぞれ五つの選択肢の中から、正しいものを一つ選んで、所定の解答用紙に、たとえば、(A)とか(D)のように、記号で記入せよ。(40点)

(1) 次の式のうちで、 ${}_1V_x$ を表わしていないのはどれか。

- (A) $A_{x:n} \left(1 - \frac{P_x}{P_{x+n}}\right)$ (B) $1 - (P_x + d) \ddot{a}_{x:n}$
 (C) $(P_{x+n} - P_x) a_{x:n}$ (D) $\frac{a_x - a_{x+n}}{1 + a_x}$ (E) $\frac{A_{x:n} - A_x}{1 - A_x}$

(2) 死力が定数 k のとき、 \ddot{a}_x は次のどの式で表わされるか。

- (A) $k + \delta$ (B) $k - \delta$ (C) $\frac{\delta}{k}$ (D) $\frac{1}{k - \delta}$ (E) $\frac{1}{k + \delta}$

(3) 年初の資産を A 、年末の資産を B 、年度内に収入した利息を I とするとき、利力 δ は次のどの式で表わされるか。ただし、利力 δ は一定で、資産は一次的に変化するものとする。

- (A) $\frac{2I}{A+B-I}$ (B) $\frac{2I}{A+B}$ (C) $\frac{2I}{A+B+I}$ (D) $\frac{I}{A+I}$ (E) $\frac{I}{A-I}$

(4) $\ddot{a}_x = 10$ 、 $\ddot{a}_{x+n} = 9$ とするとき、 ${}_1V_x$ の値は次のどれか。

- (A) 0.9 (B) 0.7 (C) 0.5 (D) 0.3 (E) 0.1

(5) 次の式のうちで、 $\frac{dD_x}{dx}$ を表わしているのはどれか。

- (A) $-N_x$ (B) $D_x(\mu_x + \delta)$ (C) $-D_x \mu_x + \delta$ (D) $-D_x(\mu_x - \delta)$ (E) $-D_x(\mu_x + \delta)$

(6) 次の式のうちで、 $\frac{d}{di} a_x$ を表わしているのはどれか。

- (A) $-v(Ia)_x$ (B) $-(Ia)_x$ (C) $v(Ia)_x$ (D) $-v(Ia)_x$ (E) $-\delta(Ia)_x$

(7) 次の式のうちで、 ${}_1P_x^{(m)}$ の近似式を与えているのはどれか。

- (A) $\frac{{}_1P_x}{1 - \frac{m-1}{2m}d}$ (B) $\frac{{}_1P_x}{1 - \frac{m-1}{2m}(P_x \cdot \pi + d)}$ (C) $\frac{{}_1P_x}{1 - \frac{m-1}{2m}d - \frac{1}{2}P_x \cdot \pi}$
 (D) $\frac{{}_1P_x}{1 - \frac{m-1}{2m}(P_x \cdot \pi - d)}$ (E) $\frac{{}_1P_x}{1 - \frac{m-1}{2m}d + \frac{1}{2}P_x \cdot \pi}$

(8) 次の式のうちで、 ${}_2q_{x:m}$ を表わしているのはどれか。

- (A) ${}_2q_x + {}_2q_x$ (B) ${}_2q_x + {}_2q_x + {}_2q_x$ (C) ${}_2q_x + {}_2q_x - {}_2q_x$
 (D) ${}_2q_x + {}_2q_x + 2 \cdot {}_2q_x$ (E) ${}_2q_x + {}_2q_x - 2 \cdot {}_2q_x$

(9) 次の記述のうち、 μ_x について正しい内容のものはどれか。

- (A) $\mu_x < 0$ となることがある。 (B) 常に $0 \leq \mu_x \leq 1$ である。
(C) 常に $\mu_x < q_x$ である。 (D) 常に $\mu_x \leq 1$ とは限らない。
(E) 常に $\mu_x > q_x$ である。

(10) $a_x = 12.36$, $A_x = 0.738$ のとき、 i の値は次のどれか。

- (A) 6.0% (B) 5.5% (C) 2.0% (D) 6.5% (E) 2.5%

2. 次の内容の保険契約に x 歳 ($x < y$) で加入した契約者 (被保険者と同一人とする) の支払うべき年純保険料と、その契約の保険年度末責任準備金を表わす算式を求めよ。

- (1) 年金開始年齢 (y 歳) に到達する前に被保険者が死亡した場合、その保険年度末を第一回目として毎年年額 2 の確定遺族年金を 10 年間支払う。
(2) 被保険者が年金開始年齢まで生存した場合、年金開始年齢到達時を第一回目として、毎年年額 1 の 10 年保証付終身年金 (年始払) を支払う。
(3) 保険料払込期間は、年金開始年齢までとする。

(20点)

3. 日本全会社生命表 (1972~'76)(男) の利率 5% による基数が次のように与えられたとき、同計算基礎による $(IA)_{\overline{30}|}$ の値を求めよ。(小数点第 5 位を 4 捨 5 入)

$$D_{\overline{30}|} = 22,445 \quad N_{\overline{30}|} = 409,509 \quad S_{\overline{30}|} = 6,344,221$$

(20点)

4. 二種類の死亡表の死亡率 $\{q_x\}$, $\{q'_x\}$ の間につねに

$$q'_x = q_x + \frac{k}{\ddot{a}_{x+1}}$$

なる関係があるとき、

$$P'_x = P_x + \frac{vk}{\ddot{a}_x}$$

が成り立つことを示せ。

ここに P_x , P'_x はそれぞれ $\{q_x\}$, $\{q'_x\}$ によって計算された終身保険の保険料とする。

(20点)

昭和58年度（解答例）

1.

問題番号	解答欄
(1)	C
(2)	E
(3)	B
(4)	E
(5)	E
(6)	A
(7)	B
(8)	C
(9)	D
(10)	C

正解は上表のとおりであるが、以下問題を再掲すると共に、解法を略記する。

(1) 次の式のうちで、 ${}_tV_x$ を表わしていないのはどれか。

(A) $A_{x+t} \left(1 - \frac{P_x}{P_{x+t}}\right)$ (B) $1 - (P_x + d)\ddot{a}_{x+t}$

(C) $(P_{x+t} - P_x)a_{x+t}$ (D) $\frac{a_x - a_{x+t}}{1 + a_x}$ (E) $\frac{A_{x+t} - A_x}{1 - A_x}$

(解) (C)

$$\begin{aligned}
 {}_tV_x &= A_{x+t} - P_x \ddot{a}_{x+t} = A_{x+t} \left(1 - \frac{\ddot{a}_{x+t}}{A_{x+t}} P_x\right) = A_{x+t} \left(1 - \frac{P_x}{P_{x+t}}\right) \\
 &= (1 - d\ddot{a}_{x+t}) - P_x \ddot{a}_{x+t} = 1 - (P_x + d)\ddot{a}_{x+t} \\
 &= 1 - \frac{1}{\ddot{a}_x} \ddot{a}_{x+t} = 1 - \frac{1 + a_{x+t}}{1 + a_x} = \frac{a_x - a_{x+t}}{1 + a_x} \\
 &= \frac{A_{x+t} - A_x}{1 - A_x} \quad \left(\because \ddot{a}_x = \frac{1 - A_x}{d}\right) \\
 &= P_{x+t} \ddot{a}_{x+t} - P_x \ddot{a}_{x+t} = (P_{x+t} - P_x)(1 + a_{x+t})
 \end{aligned}$$

(2) 死力が定数 k のとき, \bar{a}_x は次のどの式で表わされるか。

- (A) $k+\delta$ (B) $k-\delta$ (C) $\frac{\delta}{k}$ (D) $\frac{1}{k-\delta}$ (E) $\frac{1}{k+\delta}$

(解) (E)

$$\bar{A}_x = 1 - \delta \bar{a}_x, \quad \text{一方 } \bar{A}_x = \int_0^{\infty} v^t p_x \mu_{x+t} dt = k \int_0^{\infty} v^t p_x dt = k \bar{a}_x$$

$$\therefore k \bar{a}_x = 1 - \delta \bar{a}_x \quad \therefore \bar{a}_x = \frac{1}{k+\delta}$$

(3) 年始の資産を A , 年末の資産を B , 年度内に収入した利息を I とするとき, 利力 δ は次のどの式で表わされるか。ただし, 利力 δ は一定で, 資産は一次的に変化するものとする。

- (A) $\frac{2I}{A+B-I}$ (B) $\frac{2I}{A+B}$ (C) $\frac{2I}{A+B+I}$ (D) $\frac{I}{A+I}$ (E) $\frac{I}{A-I}$

(解) (B)

$$f(t) = \alpha + \beta t \quad \text{とすると } f(0) = \alpha = A, \quad f(1) = \alpha + \beta = B$$

$$I = \int_0^1 f(t) \delta dt = \delta \left(\alpha + \frac{\beta}{2} \right) = \delta \frac{A+B}{2} \quad \therefore \delta = \frac{2I}{A+B}$$

(4) $\ddot{a}_x = 10$, $\ddot{a}_{x+t} = 9$ とするとき, ${}_tV_x$ の値は次のどれか。

- (A) 0.9 (B) 0.7 (C) 0.5 (D) 0.3 (E) 0.1

(解) (E)

$${}_tV_x = 1 - \frac{\ddot{a}_{x+t}}{\ddot{a}_x} = 1 - \frac{9}{10} = 1 - 0.9 = 0.1$$

(5) 次の式のうちで, $\frac{dD_x}{dx}$ を表わしているのはどれか。

- (A) $-\bar{N}_x$ (B) $D_x(\mu_x + \delta)$ (C) $-D_x \mu_x + \delta$ (D) $-D_x(\mu_x - \delta)$ (E) $-D_x(\mu_x + \delta)$

(解) (E)

$$\begin{aligned} \frac{dD_x}{dx} &= \frac{d}{dx} (v^x l_x) = v^x \frac{dl_x}{dx} + l_x \frac{dv^x}{dx} \\ &= -v^x l_x \mu_x - v^x l_x \delta \quad \left(\because \frac{dv^x}{dx} = v^x \log v = -v^x \delta \right) \\ &= -v^x l_x (\mu_x + \delta) \\ &= -D_x(\mu_x + \delta) \end{aligned}$$

(6) 次の式のうちで、 $\frac{d}{di}a_x$ を表わしているのはどれか。

- (A) $-v(Ia)_x$ (B) $-(Ia)_x$ (C) $v(Ia)_x$ (D) $-v(Ia)_\infty$ (E) $-\delta(Ia)_x$

(解) (A)

$$\begin{aligned}\frac{d}{di}a_x &= \frac{d}{di} \left[\sum_{t=1}^{\infty} v^t {}_t p_x \right] = \frac{d}{di} \left[\sum_{t=1}^{\infty} (1+i)^{-t} {}_t p_x \right] \\ &= \sum_{t=1}^{\infty} -t(1+i)^{-t-1} {}_t p_x = -v \sum_{t=1}^{\infty} t v^t {}_t p_x = -v(Ia)_x\end{aligned}$$

(7) 次の式のうちで、 ${}_t P_x^{(m)}$ の近似式を与えているのはどれか。

- (A) $\frac{{}_t P_x}{1 - \frac{m-1}{2m}d}$ (B) $\frac{{}_t P_x}{1 - \frac{m-1}{2m}(P_x^1: \overline{1} + d)}$ (C) $\frac{{}_t P_x}{1 - \frac{m-1}{2m}d - \frac{1}{2}P_x^1: \overline{1}}$
 (D) $\frac{{}_t P_x}{1 - \frac{m-1}{2m}(P_x^1: \overline{1} - d)}$ (E) $\frac{{}_t P_x}{1 - \frac{m-1}{2m}d + \frac{1}{2}P_x^1: \overline{1}}$

(解) (B)

終身保険の場合の $P_x^{(m)} = P_x + \frac{m-1}{2m}P_x^{(m)}$ 、 $P_x + \frac{m-1}{2m}P_x^{(m)}d$ において、有限払

込であれば死亡年度の保険料損失は保険料払込期間に限るから。また、(A)は

${}_t P_x^{[m]}$ 、(C)は ${}_t P_x^{(m)}$ の近似で、(D)、(E)は(B)と(C)の一部符号を代えたもの。

(8) 次の式のうちで、 ${}_n q_{\overline{xy}}$ を表わしているのはどれか。

- (A) ${}_n q_x + {}_n q_y$ (B) ${}_n q_x + {}_n q_y + {}_n q_{xy}$ (C) ${}_n q_x + {}_n q_y - {}_n q_{xy}$
 (D) ${}_n q_x + {}_n q_y + 2{}_n q_{xy}$ (E) ${}_n q_x + {}_n q_y - 2{}_n q_{xy}$

(解) (C)

$${}_n q_{\overline{xy}} = {}_n q_x \cdot {}_n q_y = (1 - {}_n p_x)(1 - {}_n p_y) = 1 - ({}_n p_x + {}_n p_y) + {}_n p_{xy} = (C)$$

(9) 次の記述のうちで、 μ_x について正しい内容のものはどれか。

- (A) $\mu_x < 0$ となることがある。 (B) 常に $0 \leq \mu_x \leq 1$ である。
 (C) 常に $\mu_x < q_x$ である。 (D) 常に $\mu_x \leq 1$ とは限らない。
 (E) 常に $\mu_x > q_x$ である。

(解) (D)

明らかに(A)は間違いで、 $\mu_x > 1$ となることがあるのは良く知られた事実であるから、(B)は間違いで、(D)は正しい。以下で(C)と(E)につき調べる。

$${}_xq_x = \int_0^1 l_{x+t} \mu_{x+t} dt \text{ であり、} l_{x+t} \mu_{x+t} \text{ が増加・減少に従って } q_x > \mu_x, \\ q_x < \mu_x \text{ である。} (\because \text{増加} \Leftrightarrow l_x q_x = \int_0^1 l_{x+t} \mu_{x+t} dt > l_x \mu_x \Leftrightarrow q_x > \mu_x, \text{減少} \\ \Leftrightarrow l_x q_x < l_x \mu_x \Leftrightarrow q_x < \mu_x)$$

ところで、 $l_x \mu_x = -\frac{dl_x}{dx}$ だから $l_x \mu_x$ の増加・減少は l_x 曲線の凹凸により判定される。従って $q_x > \mu_x$ となることも $q_x < \mu_x$ となることもある。よって、(C)も(E)も間違い。

(10) $a_x = 12.36$, $A_x = 0.738$ のとき、 i の値は次のどれか。

(A) 6.0% (B) 5.5% (C) 2.0% (D) 6.5% (E) 2.5%

(解) (C)

$$A_x = 1 - d\ddot{a}_x = 1 - d(1 + a_x)$$

$$\therefore v = \frac{1}{1+i} = 1 - d = 1 - \frac{1 - A_x}{1 + a_x} = \frac{A_x + a_x}{1 + a_x}$$

$$\therefore 1 + i = \frac{1 + a_x}{A_x + a_x} = \frac{13.36}{13.098} = 1.020003053 \quad \therefore i \approx 0.02$$

2. (1) 年払純保険料 (P とおく)

$$\text{収入 : } P\ddot{a}_x : \overline{y-x}$$

$$\text{支出 : (1)の給付 } \frac{2\ddot{a}_{10}}{D_x} \sum_{t=0}^{y-x-1} C_{x+t}$$

$$\text{(2)の給付 } \frac{D_y}{D_x} \left(\ddot{a}_{10} + \frac{D_{y+10}}{D_y} \ddot{a}_{y+10} \right)$$

$$\therefore P = \frac{1}{\ddot{a}_x : \overline{y-x}} \left\{ \frac{2\ddot{a}_{10}}{D_x} \sum_{t=0}^{y-x-1} C_{x+t} + \frac{D_y}{D_x} \left(\ddot{a}_{10} + \frac{D_{y+10}}{D_y} \ddot{a}_{y+10} \right) \right\}$$

(2) 保険年度末責任準備金

(a) $t < y-x$

$$\text{契約者生存 } {}_tV = \frac{2\ddot{a}_{10}}{D_x} \sum_{k=t}^{y-x-1} c_{x+k} + \frac{D_y}{D_{x+t}} \left(\ddot{a}_{10} + \frac{D_{y+10}}{D_y} \ddot{a}_{y+10} \right) - P\ddot{a}_{x+t} : \overline{y-x-t}$$

契約者死亡（死亡が第 l 保険年度中とする）

$${}_tV = \begin{cases} 2a_{\overline{9-(t-l)}|} & t-l < 10 \\ 0 & t-l \geq 10 \end{cases}$$

(b) $t \geq y-x$

$$\text{契約者生存 } {}_tV = \begin{cases} \ddot{a}_{\overline{10-(t-y+x)}|} + \frac{D_{y+10}}{D_{y+t}} \ddot{a}_{y+10} & t \leq y-x+10 \\ \ddot{a}_{x+t} & t > y-x+10 \end{cases}$$

契約者死亡 ${}_tV = 0$

3. $M_x = vN_x - N_{x+1}$ より $R_x = vS_x - S_{x+1}$

また, $S_{x+1} = S_x - N_x$

したがって,

$$(IA)_{30} = \frac{R_{30}}{D_{30}} = \frac{vS_{30} - S_{31}}{D_{30}} = \frac{N_{30} - (1-v)S_{30}}{D_{30}} = 4.7852$$

$$4. P'_x - P_x = \left(\frac{1}{\ddot{a}'_x} - d \right) - \left(\frac{1}{\ddot{a}_x} - d \right) = \frac{1}{\ddot{a}'_x} - \frac{1}{\ddot{a}_x}$$

$$\text{従って, } \frac{1}{\ddot{a}'_x} - \frac{1}{\ddot{a}_x} = \frac{vk}{\ddot{a}_x}$$

$$\text{すなわち } \ddot{a}_x = \ddot{a}'_x(1+vk) \quad \dots\dots ①$$

を証明すればよい。

$$\ddot{a}_x = 1 + v p_x \ddot{a}_{x+1} \quad \dots\dots ②$$

$$\ddot{a}'_x = 1 + v p'_x \ddot{a}'_{x+1} \quad \dots\dots ③$$

と変形できる。

$$\text{また, } p_x - p'_x = q'_x - q_x = \frac{k}{\ddot{a}'_{x+1}} \quad \dots\dots ④$$

$$④を②に代入して \ddot{a}_x = 1 + v(p'_x \ddot{a}_{x+1} + k) \quad \dots\dots ⑤$$

$$⑤ - ③ \quad \ddot{a}_x - \ddot{a}'_x = v p'_x (\ddot{a}_{x+1} - \ddot{a}'_{x+1}) + vk$$

両辺に D'_x を掛けると

$$D'_x (\ddot{a}_x - \ddot{a}'_x) = D'_{x+1} (\ddot{a}_{x+1} - \ddot{a}'_{x+1}) + vk D'_x$$

同様にして

$$D'_{x+1}(\ddot{a}_{x+1} - \ddot{a}'_{x+1}) = D'_{x+2}(\ddot{a}_{x+2} - \ddot{a}'_{x+2}) + vkD'_{x+1}$$

$$D'_{x+2}(\ddot{a}_{x+2} - \ddot{a}'_{x+2}) = D'_{x+3}(\ddot{a}_{x+3} - \ddot{a}'_{x+3}) + vkD'_{x+2}$$

.....

辺々加えると

$$D'_x(\ddot{a}_x - \ddot{a}'_x) = vkN'_x$$

$$\therefore \ddot{a}_x - \ddot{a}'_x = vk\ddot{a}'_x$$

すなわち①が証明された。